

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	コロナ禍でのSDGsと自然・生命・人間
別タイトル	SDGs and Nature Life Man" in the Covid 19 era
作成者（著者）	盛田, 俊介
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.09.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(3). p.103 103.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021 017
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD16779294

コロナ禍でのSDGsと自然・生命・人間

盛田 俊介

東邦大学医学部臨床検査医学講座（大森）教授

SDGs. Sustainable Development Goals の略称です。2016年から2030年の15年間で達成すべき世界共通の目標として、2015年9月、「持続可能な開発サミット」において採択されました。地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」を標語とし、17の社会目標と169のターゲットを掲げ2030年までの解決を目指しています。採択から5年の今、世界は新型コロナウイルス感染症のパンデミック下にあります。

PuBMedによる検索で、Covid-19でヒットする論文数は2019年から2021年6月4日時点で約14万編に上り、多くの新知見が生まれ、そして社会に還元されています。本学が関わった論文は36編であり、その内訳は、原著、貴重な症例報告、多施設共同研究、試薬の性能評価や技術論文など多岐にわたると共に、多彩な職種の方々から報告されています。これは、「診療、研究、教育」が医学部そして病院において多職種の方々に関わり実践されていることを表しており、大変好ましいことです。

新型コロナウイルス感染症研究の社会への貢献面での代表的成果物は、ワクチン開発であろうと思います。ワクチン接種率が高い国においては、既に新規患者数が減少し、経済回復に向かっていきます。日本でもワクチン接種が開始され、ワクチン供給の安定化と接種体制の拡充により、希望するすべての国民にワクチンが接種されることでしょう。しかし一方で、富裕国と貧困国の「ワクチン格差」が拡大していることをWHOは問題視しています。

「緊急事態宣言」「ステイホーム」は、労働集約型産業を縮小と停止に追い込み、学校が閉鎖され、本学部でも入構禁止となりました。しかし他方で、ITインフラの整備と利活用が進み、リモートワークやリモート授業が実施されるなど、デジタル・トランスフォーメーション(Dx)が、産業や教育に改革を齎しています。しかし、このDxは全

ての業種、地域で等しく推進できるはずもなく、経済格差、教育格差を生み出しています。

国際エネルギー機関は、経済活動やヒトの移動制限から、2020年の全世界の二酸化炭素排出量が前年比5.8%減少したことを明らかにしています。ハワイの海やベニスの運河が綺麗になる等、地球環境の改善は良いことである一方で、経済活動の制限は、貧困、飢餓、そして多数の死者に繋がっています。また、一部の国で回復しつつある経済活動の結果、今年の世界のエネルギー需要は4.6%増加し、二酸化炭素排出量の増加幅は、史上2番目の15億トン記録する見通しであることを、同機関が報告しています。これは、化石燃料の消費が再生可能エネルギーの伸びを上回るためです。2年にも満たない期間で、新型コロナウイルス感染症は、社会に進歩と革新、矛盾と格差を生み出しています。

額田晉先生が著作「自然・生命・人間」を発刊されたのは、1957年です。この中に以下の記述があります。

「人類はまだ若年なのである。人類の歴史を一つの過程としてみると、いいかえれば理想の実現を目指して絶えず向上していく生命の闘争を見るならば、われわれはやがて科学本来の正しい使命に目ざめて、必ずや現代の危険を克服していくであろうことを知るのである。」

60年以上前に発刊されたこの「自然・生命・人間」には、自然の偉大さを知り畏敬の念を抱くこと、掛け替えない自然と生命を尊重することの重要性、人間は自然の一部であり、自然と生命との共生の中で生きていることが書かれています。自然、生命、人間。この3者が真にバランスよく共生し誰一人取り残さないSDGsの達成は、「生命(いのち)の科学で未来をつなぐ」東邦大学医学部こそが果たすべき仕事に思えます。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2021-017